

応急の担架で搬送体験



毛布とさおで仕立てた担架で負傷者
役を運ぶ生徒たち＝知立市竜北中で

知立の竜北中で防災学習

自然災害の被害軽減のために行うことができることを体験を通して学ぶ授業が三十日、知立市竜北中学校であった。専門家や地域住民らが協力し、一年生二百三十四人が参加した。

「いざという時には」「避難所生活では」「知識を増やそう」をテーマに、体育館内に十二ブースを設置。消防団員やボランティアの愛知教育大生らが講師を務めた。生徒は、アイマスクを着けて視覚障害者が障害物を避けながら歩く難しさと誘導方法を学んだり、水が出る訓練用消火器

で初期消火を練習したりした。

自衛隊愛知地方協力本部
安城募集案内所のブースでは、毛布と物干しざおで仕立てた応急の担架で負傷者役の搬送を体験した。隊員は「腕力を使うと長時間持てないので、腕は曲げず腰で持ち上げる意識で」と助言した。平沢由萌さん（二）は「身近な物で人を運べることに驚いたし、持ち方の工夫も学べた。もし災害が起きて困っている人がいたら自分から積極的に動くようにしたい」と話した。

二〇一九年度から始まった一、二年の防災教育体験学習の一環。生徒は今回学んだことを伝え合ったり、成果を新聞としてまとめた（神谷慶）